

新潟大学の新学士課程教育の構築と構築の現状と課題

1. 中期目標・中期計画における学士課程教育の課題

新潟大学

全学教育機構長・理事副学長 河野 正司

全学教育機構の機構長を仰せつかっております教育担当の理事、河野でございます。本日はこの悪天候の中をお集まりいただきましてありがとうございます。

現在は、全学教育機構が立ち上がって1年がたとうとしているところであり、法人が始まって2年になろうとしています。そういう時期に開かれたこのシンポジウムは、全学教育機構がどうして出来上がってきたか、また、それが新潟大学の6年間の中期計画、中期目標とどのような関係にあるかということをもう一度振り返ってみるいい機会ではないかと思っております。

先生方をご存知とは思いますが、新潟大学が、中期目標・中期計画の中でどういう人材を育成するかということを書いた教育に関する目標をもう一度振り返ってみますと、そこには「深い教養と広い視野を備え、豊かな人間性と高い倫理性をもつ人材を育成したい」と明記されています。「深い教養と広い視野」、このキーワードは今日の講演の中で何回か出てくるかと思っております。そういう深い教養と広い視野をもった者、そしてまた、「基礎的技能と専門知識を身につけ創意工夫と問題解決能力に富む人材を育成」したい、ということも書かれております。この二つの中期的教育目標は、新潟大学の理念というところに書かれております。この新潟大学の理念のキーワードは「自律と創生」ですが、これを教育の面で具体化した一つの目標が中期目標とされていると思っております。

この実際の目標をどのようにして具体化するか、ということが問題であります。もう少しこの目標について学士課程教育に目を向けて読んでみますと、社会人・職業人として必要な基礎的能力、基礎的素養を涵養しながら学部固有の教育目標を達成するというところでございます。そこで、この学部固有の教育目標を達成するにはどういう措置をとるかということですが、それにつきましても中期計画の中に十分に書かれてございます。すなわち、教養教育と専門教育との連続性、段階性、体系性を有する一貫した教育体制を構築するということが必要であるし、それを実践していくということであり、また従来の学位を基礎としながら、副専攻制の導入等により、複線型履修を可能と

する教育課程を整備しようというふうに書かれております。教養教育と専門教育を一貫した教育体制として構築する、そしてまた複線型履修を可能とするということで、これらは総合大学、ユニバーシティである新潟大学が持っている豊かな教員資質を十分に生かすことによって始めて可能になるのではないかと思っております。9学部ある新潟大学で初めて可能で、単科大学ではとても無理な事である、このような計画を大いに活かして、計画が実現できるようにしていかなきゃいけないというふうに思っております。

こういう目標と、それを達成するための計画があるわけです。計画を実際に具体的に実行する為に、今年度4月に全学教育機構を発足させ、具体的な施策を実行に移ってきております。すなわち、「教養に資する科目と専門教育に資する科目を、有機的連携を保ちながら学士課程全般を通じて履修する《全学科目》として位置づけて、学士課程教育のあり方を刷新する」、ということは、もう全学の教員のひとつの理解となっていると思っております。そしてまた、複線型の履修を行うために、副専攻制度が昨年から実際に導入され、本年度はこれ副専攻の認定を受ける学生もでてくることになっております。

新潟大学には5000を超える教科、全学科目があるわけですが、このような制度、それらを有効に利用しながら行っていくために、我々は分野・水準法、いわゆるベンチマークシステムというものを導入しています。

この、ベンチマークシステムを導入して一年たとうとする今現在におきまして、いろいろな課題ができていくことが明らかになってまいりました。この課題について今日、後でご報告いただくわけでありまして。その中には副専攻制度の導入という過程から明確になってまいりました、主専攻とはなんであろう、先ほども学長が指摘しておりましたが、主専攻というものはなんだろうという重い課題がございます。先ほど申し述べました、学士課程教育の中期計画の中には学部固有の教育目標というものがかけられているからであります。学部固有の教育目標というものを明確にするためには、各学部における主専攻プログラムというも

のが明らかになる必要があるわけです。それぞれの学部におかれましては現実にその主専攻プログラムが動いているわけでありますが、その主専攻ということの頭に明確に置きながらプログラムというものをもう一度明らかにしていく、明確化することが今迫られているのではないかと思います。

本日は、こういう状況にある新潟大学の教育のシステムの中におきまして、これらについて幾分かの解決を得るために全学教育機構の他に二つのお話をしていただくことになっております。ひとつは、本学の農学部生産環境科学科において、複数コース制をとられて主専攻プログラムというものを明確にしようとしていらっしゃる試みについて、箕口先生にお話をしていた

たくことと、またもうひとつは広島大学で非常に広範に行われております「到達目標型の主専攻プログラム」について、広島大学総合科学部の於保先生にお話をさせていただくことになっております。

これらのご講演、このFDを通じまして、新潟大学でこれから我々が明確にしていかなければいけない学士課程教育におけます、主専攻プログラムのイメージが我々の心の中に少しでも築ければと思っておりますし、それよりまして新潟大学の教育が国民の期待にこたえることが出来るように発展していくことを願っております。そういう意味で、今日のこのFDが有意義なものであることを願って私のご挨拶とさせていただきます。